

グローバル化と国際社会 A		講義	教授 大西 一成	
科目カテゴリー	国際ビジネスコースの選択必修科目	科目ナンバリング	23100102	

1. 授業のねらい・概要

「グローバル化と国際社会」について、まず歴史的な考察を踏まえながら、「グローバル化」が本来有する意味と課題について問い直すことをねらいとしている。グローバル化が果たして何をもたらし、何を成し遂げ、その後どのような課題が残され、また今後どのような時代が予想されるのかを講義内容とする。より具体的には資料、論文等を用いて基本的な考え方の習得を目指したい。その後、今日の国際社会における具体的な諸問題について取り上げる。

2. 授業の進め方

前半は教科書を中心に進め歴史的な推移を学び、その後様々な資料・論文等を取り上げて進めていく。また板書に基づきながら、受講生自身による自筆ノートの作成を重視する。基本となる論文、論説を中心に授業を進める。

3. 授業計画

1. インTRODクシヨン（授業の進め方、内容の概観）	10. 自由貿易協定への動き①（欧州及び東南アジアを中心に）
2. 「グローバル化」とは何であるかを考える	11. 自由貿易協定への動き②（南アジア、南米を中心に）
3. 世界経済の概観①（ブレトンウッズ体制とその後）	12. 国際社会における新たな局面について（グローバルサウスの台頭を中心に）
4. 世界経済の概観②（「グローバル化」への動き）	13. 国際社会と環境問題①（経済発展と環境問題）
5. 今日の通商問題の概観①（自由貿易と保護貿易）	14. 国際社会と環境問題②（COP31を中心に）
6. 今日の通商問題の概観②（金利、為替を中心に）	15. 国際社会に関する主たる問題点の整理と講義の総括
7. 米国の国際社会国際社会に向けた新たな動き①（通商政策を中心に）	
8. 米国の国際社会国際社会に向けた新たな動き②（金融政策を中心に）	
9. EUに見る取り組みと課題①（金融政策を中心に）	
10. EUに見る取り組みと課題②（財政政策を中心に）	

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容については授業の進度内容に応じて適宜、授業において伝える。予習としては、授業で指示した内容で進めてほしい。復習は、授業で用いた論文、資料について見直し、自分ではどう考えるかを整理することが望まれる。予習・復習に必要な時間は、概ね2時間程度が目安であろう。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

期末試験の採点結果は要求に応じて個別に公表する。宿題については復習あるいは予習を内容とし、ミニッツ・ペーパーによる提出を求める。宿題の解説については次の授業の冒頭で行う。

6. 授業における学修の到達目標

今日の国際社会について、自分なりに課題を見出し、その課題に対し自らの視点で考えまとめあげる力の修得を到達目標とする。

7. 成績評価の方法・基準

授業への参加状況及び課題提出等（30%）、学期末試験（70%）によって評価する。

8. テキスト・参考文献

教科書は指定しない。適宜、授業で資料、データ、論文等を配布する。

参考文献は、杉山伸也（2014）『グローバル経済史入門』（岩波新書，860 円+税），細谷雄一（2012）『国際秩序』（中公新書，880 円+税）等。

9. 受講上の留意事項

後期の「グローバル化と国際社会 B」も併せて履修することが望ましい。

今日の国際社会の動きについては，経済専門紙等を図書館等で日々講読することも重要である。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当する。金融機関における実務経験を活かして指導する。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。